

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 西工の伝統と創立時の校憲に基づく「尊敬される職工の育成」に取り組み、大阪の産業界を担うものづくり人材を育成する大阪一の工科高等学校をめざす
- ものづくり教育により、実践力と社会の技術の進展に対応できる力を身に付けさせるための指導を行い、社会で活躍できる生徒を育成する
 - 全ての教育活動において、チャレンジ精神と協働性を醸成する指導を行い、様々な課題を発見し、解決できる力を持つ生徒を育成する
 - 実践的技能養成重点校として、資格、検定、コンテスト、競技会、企業等との連携など様々な活動に取り組みせ、意欲ある生徒を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校

- (1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。
- ア 少人数展開授業やICT機器の活用とともに公開授業や研究授業を積極的かつ組織的に推進し、学校全体の授業力を向上させるとともに、できたことを褒める指導を意識し、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。
- イ 外部テスト「基礎力診断テスト」を活用し、基礎学力の充実を図る。
- ウ PBL学習を推進する。「キャリアガイダンス」「総合的な探究の時間」や「課題研究」での全校的な取組みを系統的・計画的に進め、生徒の主体性・自己肯定感を育成する。
- エ グローバル化や情報化が加速度的に進展する社会で、必要となる語学力（英語）の育成に努める。
- ＊生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく行われている」を向上させ、令和8年度まで肯定率90%以上を維持する。(R4 87%、R5 92%、R6 89%)
- ＊年1回4月に実施している外部テスト「基礎力診断テスト」における最下位層の人数割合を減少させる。
- ＊生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率85%以上を維持する。(R4 86%、R5 87.1%、90%)
- ＊課題研究での複数系の生徒が連携した系横断での取り組みを活発化させる【新規】
- ＊リスニング英語検定にチャレンジする生徒の延べ人数10名※以上(R4 8名、R5 23名、R6 12名)をめざし、あわせて合格率60%以上(R4 38%、R5 30%、R6 75%)を維持する。※閉校に伴う生徒数の減少から目標指標を変更
- (2) 生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で役立つ国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。
- ＊卒業までに3つ以上の検定・資格を受検させ、その取得・合格をめざす。
- ＊各種コンテスト応募や競技会等出場への指導と資格等取得により、ジュニアマイスター顕彰受賞者10人以上をめざす(R4 18人、R5 12人、R6 10名)

2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校

- (1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を推進する。
- ア 挨拶指導・遅刻防止指導を推進する。
- ＊遅刻生徒数400件※以下をめざす。(R4：461件、R5：711件、R6：1120件)※閉校に伴う生徒数の減少から目標指標を変更
- ＊転学、退学生徒数の合計で令和8年度までに9人以下をめざす。(R4：22人、R5：15人、R6：38人)
- (2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、人権感覚や人権意識の向上を図り、社会人に相応しい人格と態度を養う。
- ア 発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する。
- ＊生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率90%以上をめざす。(R4 90%、R5 92%、R6 89%)
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
- ア 教育相談体制の充実を図り、生徒指導部・学年・系の連携による生徒支援と教育相談活動を行う。
- イ 三か年を通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取組み、就職内定率向上と離職率低減を図る。
- ウ 生徒の夢や希望を実現するために、個々の生徒の状況や発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実を図る。
- ＊生徒向け学校教育自己診断の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定率80%以上を維持する。(R4 77%、R5 80.2%、R6 85%)
- ＊教員向け学校教育自己診断の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率80%以上をめざす。(R4 56%、R5 78%、70%)
- ＊就職率100%を堅持するとともに生徒の進路決定率100%をめざす。離職率調査において、自己実現のための離職を除く3年以内の離職率30%未満を維持する。(就職率R4 100%、R5 100%、R6 100%) (進路決定率 R4 100%、R5 100%、R6 100%) (離職率R4 32%、R5 23%、R6 24%)
- ＊生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90%以上をめざす。(R4 93%、R5 94%、R6 89%)

3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒会活動や各種イベントへの積極的な参加等、生徒が主体的に関わる活動を推進する。また部活動の活性化を推進する。
- ア 産業教育フェア、中学校訪問、地域小中学校との連携やものづくりイベント等の行事に、生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。
- イ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。
- ウ 閉校に向けて学年数、生徒数が減少していく。すべての生徒が自信と誇りをもって卒業できるように取り組む。
- ＊部活動加入生徒へのアンケートをおこない満足度80%をめざす。【新規項目】
- ＊生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」を向上させ肯定率80%以上をめざす。【新規項目】(R4 78%、R5 82%、R6 78%)
- (2) 公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。
- ＊保護者向け学校教育自己診断「学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」を向上させ、令和8年度には肯定率80%以上をめざす。(R4 53%、R5 66%、R6 78%)
- ＊保護者向け学校教育自己診断「学校では、PTA活動は活発である」を令和8年度には肯定率80%以上をめざす。(R4 67%、R5 80%、R6 75%)
- ＊保護者向け学校教育自己診断「学校は、教育情報について提供の努力をしている」を向上させ肯定率80%以上を維持する。(R4 89%、R5 84%、R6 87%)
- (3) 生徒に対しての防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取り組み、学校の危機対応能力を高める。
- ＊生徒向け学校教育自己診断「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか知らされている」の肯定率85%以上を維持する。(R4 88%、R5 89%、R6 89%)
- (4) 学校ウェブページの充実や教育プラットフォームの活用、保護者、生徒、地域に対し学校の魅力発信に取り組む。
- ア 学校行事や地域ものづくりイベントへの協力・連携等を推進し、情報発信する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
- ＊教職員向け学校教育自己診断における校務の効率化に関する項目の肯定率について70%をめざす。(R4：51%、R5：62%、R6 59%)
- (2) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。
- ＊働き方改革を推進し、時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。(R4 0件、R5 4件、R6 2件)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
回答率：生徒 81%、保護者 26%、教員 80% 保護者の回答率が20%台で推移している。26%（昨年は18%）と若干の改善が見られたものの、保護者への周知・回答依頼に取り組んでいきたい。 【学習指導等】 ・（生徒）学習状況については全般的に生徒の評価は高く80～90%を維持できている。個別には学校満足度「学校へ行くのが楽しい」は80%と高い水準を維持できている。（R6 78%、R5 82%）。授業では「ICT機器などを活用して、わかりやすく行われている」91%（R6 89%、R5 92%）、「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」87%（R6 90%、R5 87%）と定着している。 ・（保護者）学習状況の評価は、いずれも昨年並みで、「こどもは、学校へ行くのを楽しみにしている」は77%（昨年77%）で高い水準を維持できている。「授業が分かりやすく楽しいと言っている」は65%（R6 66%、R5 71%）と低下傾向が続いており、生徒の評価（R7 91%）とは逆となっている。引き続き、担任による面談の機会に必要なに応じて支援担当者を加えるなど生徒の状況把握と改善につなげていく。 ・学習指導方法については、（生徒）「1人1台端末を効果的に活用」については89%（R6 86%、R5 85%）と活用が定着している。一方で（教員）「生徒の実態に踏まえ、個別の指導内容・指導方法について工夫・改善を行っている」が76%（R6：76%、R5 78%）と生徒に比べて低い評価で推移している。引き続き研究授業の活性化や働き方改革推進による教員の時間確保等による教科指導面を含めた学習指導の改善を進めたい。今後も、授業や教科指導、資格・検定指導や生徒のアウトプットを意識した指導の改善・充実をはかり、満足度を維持・向上させていく。 【生徒指導等】 ・生活面では（生徒）「あいさつをしている」96%（R6 94%、R5 98%）と高い。（保護者）「子どもは、日頃からあいさつしている」94%（R6 90%、R5 92%）、（教員）「生徒は、日頃からあいさつをしている」90%（R6 94%、R5 96%）といずれも肯定率は高い。本校の指導方針をしっかりと理解し取組みが定着している。 ・しかし、遅刻指導については（生徒）「遅刻をしないように意識している」94%（R6 95%、R5 96%）となる中で、（保護者）「子どもが西工に入学してから、中学生の頃と比べて遅刻は減っている」77%（R6 80%、R5 74%）であるのに比べ、（教員）「生徒の遅刻は、西工に入学した時と比べて減っている」56%（R6 25%、R5 60%）と昨年より改善したものの低い値に留まっている。遅刻指導により生徒の意識は非常に高まっているが、教員からはまだ十分ではないと評価になっている。これは、昨年度は生徒一人当たり3回以上の遅刻件数であったものが、今年度は生徒一人当たり2回余りと改善しているものの学校経営計画の目標が未達であったことともリンクしている。引き続き遅刻指導を継続していく。 ・（生徒）「気軽に相談できる先生がいる」80%（R6 85%、R5 80%）と相談体制について肯定的意見は高い。（教員）「生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」78%（R6 86%、R5 88.9%）や（保護者）「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」96%（R6 92%、R5 93%）と教員の評価が若干低下しているものの生徒、保護者の評価は高い状況を維持している。しかし、（教員）「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」58%（R6 70%、R5 78%）、（教員）「教育相談体制が整備されている」61%（R6 91%、R5 87%）がいずれも大幅に低下している。これらは、日常業務の中での生徒対応は丁寧にできており生徒・保護者からの指導面での信頼感は得ているものの、合理的配慮やオンライン授業などの校内ルール化や教員研修の充実がさらに必要である。 ・いじめ対応では生徒89%・保護者92%・教員73%と高い肯定率を維持している。あわせて「先生の指導には納得できる」（生徒）73%（R6 74%、R5 83%）や（保護者）「指導方針に共感できる」79%（R6 84%、R5 86%）であった。 ・進路指導やキャリア教育面については、（生徒）「自分の将来について考える機会は充実している」90%（R6 89%、R5 94%）や、（保護者）「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」90%（R6 93%、R5 95%）と高い評価を得た。進路面やそれに関連した生活面の指導等を全教職員が指導に取り組んでいる成果であり、本校の強みを今後も継続していく。 【学校運営等】 ・（生徒）「学校行事（体育祭・文化祭・修学旅行等）は楽しく行えるよう工夫されている」が92%（R6 85%、R5 92%）となった。閉校に伴う学年数、生徒数が減少する中で、同窓会やPTAとも連携しながら生徒会や学年を中心に工夫したことによる。来年度はさらに少なくなる生徒数に対応したより効果的な活性化・充実化の方法を工夫していく。 ・（保護者）「この学校の学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」73%（R6 79%、R5 66%）となり、昨年より若干低いが70%を維持した。引き続き保護者が参加する機会を作り、信頼される学校づくりを推進していく。また、（保護者）「学校では、PTA活動は活発である」60%（R6 75%、R5 80%）と昨年に比べて15%減となった。閉校に伴う学年数の減少によりPTAの活動が限定的になってしまった。来年度は1学年となるが、小さな規模でも充実してできる活動を工夫しながら取り組んでいく。 ・（保護者）「学校は、教育情報について、提供の努力をしている」88%（R6 87%、R5 88%）と高い肯定率を維持している。（教員）「必要な情報について周知に努めている」71%（R6 80%、R5 84%）についても減少傾向にある。引き続き継続的に工夫した取り組みをおこなっていく。	（第1回） 7月1日 ・閉校に向け学年数や生徒数が減るだけでなく教員数が減り大変になってくと思うが最後まで生徒の丁寧な指導をお願いしたい。 ・遅刻数の削減など目標を掲げて取り組んでいただいているが、生徒たちにも目標をしっかりと伝え生徒も一緒になった取り組みをさらに進めていただきたい。 ・学校にとって授業が最も大切であると思う。大学でも多くの教員が研究授業に取り組んでいる。授業見学週間の取り組みをさらに進め多くの先生方がより一層、授業改善に取り組んでいただきたい。 ・来年度はさらに生徒数が少なくなっていくが、文化祭や体育祭などの学校行事が従前どおり盛り上がるような企画や取り組みをお願いしたい。 （第2回）10月29日 ・来年度は、生徒数も教員数も減ってしまうが、生徒と教員の距離が近く、より気心が知れた関係が築けると思う。この状況をプラスにした教育活動を展開してほしい。その際には、学校だけでなく地域との連携も活用するようにしてほしい。 ・今年度の体育祭では、2学年しかいない中で、様々な新しい競技を工夫して充実していた。生徒たちにとっても楽しく思い出になったと思う。来年度は、1学年だけになるので、さらなる工夫をお願いしたい。その際に、卒業生や保護者に多く参加してもらい、いろいろな競技に出てもらえるような検討もお願いしたい。そのために、平日ではなく土曜日開催にして多くの卒業生や保護者が来やすくする工夫も検討してほしい。 ・本校が閉校になることは大変残念である。少子化の状況下では仕方がないが、中学生にとってモノづくりを教える学校を選ぶ機会が減ることは残念に思う。 ・閉校記念行事に関して、機能統合先の今宮工科高校にメモリアルルームを作るとのことだが、多くの人が利用できるような工夫をお願いしたい。例えば、今宮工科高校の生徒が自由に使えるサロンのような機能を持たせ、その部屋に西工の歴史の写真や物品を置き自由に見られるようにできないか。 （第3回）2月10日 ・課題研究の発表会を見させてもらった。系横断型の地元商店会活性化のテーマでは、生徒たちが作成したモニュメント設置場所の調整をする際の多くの地元関係者との交渉が必要でその難しさや大切さを気づくことができていた。課題研究での経験は生きた教育になっていると思う。 ・来年度の課題研究の発表会は3年生だけになり2年生に見せることができない。3年生が互いの系の発表を見学するなど学校全体での取り組みの工夫を期待している。多くの見学者の前で緊張しながら発表する体験を生徒たちにしてもらい成長につなげてほしい。 ・来年度の課題研究の発表会は、PTA 役員だけでなく全保護者に案内し参加できるようにしてほしい。保護者が学校に来る機会を増やしてほしい。卒業生や保護者がもっと競技に参加できるように体育祭を土曜日に開催することも検討してほしい。 ・来年度の文化祭や体育祭などの学校行事では、同窓会も協力させてもらおう。今までの見に来るだけでなく取り組みに参加させてもらいたい。生徒たちに良い思い出の学校行事になるようにしていきたい。 ・閉校に向けた取組みや学校行事にもっと学校協議会を頼ってほしい。協力をさせてもらおう。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校	(1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。	(1) ア 少人数展開授業や ICT 機器の活用とともに公開授業や研究授業を積極的かつ組織的に推進し、学校全体の授業力を向上させるとともに、できたことを褒める指導を意識し、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。 イ 外部テスト「基礎力診断テスト」を活用し、基礎学力の充実を図る。 ウ PBL 学習を推進する。「総合的な探究の時間」や「課題研究」での全校的な取組みを系統的・計画的に進め、生徒の主体性・自己肯定感を育成する。 エ グローバル化や情報化が加速度的に進展する社会で、必要となる語学力（英語）の育成に努める。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）項目⑤「1 人 1 台端末を活用した授業」肯定率 85%以上〔86%〕を維持する ・授業公開週間を年 2 回設定する。〔2 回〕 ・研究授業回数 3 回以上〔6 回〕 ・学校教育自己診断（生徒）項目④授業満足度 90%以上〔89%〕をめざす ・学校教育自己診断（生徒）項目⑥「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」肯定率 85%以上を維持する〔90%〕 イ・毎年度 4 月に実施している外部テストの結果、1 年→2 年、2 年→3 年の経年変化による D3 マイナスゾーンの割合を減少させる ウ・課題研究の複数系の生徒が一緒に取り組むチームを 4 チーム以上にする。【新規】 エ・リスニング英語検定にチャレンジする生徒の延べ人数 10 名以上〔12 名〕を維持し、あわせて合格率 60%以上〔75%〕を維持する ※閉校に伴う生徒数の減少を考慮した目標指標にした。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）項目⑤「1 人 1 台端末を活用した授業」肯定率：89%（○） ・教員向け授業公開週間を 2 回（6 月、1 月）実施（○） ・研究授業実施回数 3 回（○） 10 年経験者 1 名、他 1 名 2 回の計 3 回 ・学校教育自己診断（生徒）項目④授業満足度「授業は ICT 機器などを活用してわかりやすく行われている」：91%（○） ・学校教育自己診断（生徒）項目⑥「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」肯定率：87%（○） イ・D3 マイナスゾーンの割合は 3 年生が減少、2 年生が現状維持にとどまった（○） ・3 年生：R6 25%⇒R7 16% ・2 年生：R6 29%⇒R7 29% ※D3 マイナスゾーンの割合は上記の通りで 2 年生は現状維持にとどまった。 B ゾーン以上の人数については 3 年生で R6 は 1 人であったが R7 は 3 人に向上、2 年生でも R6 は 2 人が R7 は 3 人に向上している。最上位のランクも 3 年生 R6 B2 から R7 B1 に 2 年生 R6 B3 から R7 A3 に向上している。 引き続き丁寧な学習指導を展開し、全体の基礎学力向上と合わせて成績上位者のさらなる向上をめざす。 ウ・各系から生徒が参加し、4 チームが野田阪神駅前通商店会との連携をした（○） エ・リスニング検定受験人数 19 名（◎） ・リスニング検定合格者 5 名（25%）（△） ※2 年生が意欲的にチャレンジしたが、他の資格試験と重なり合格率に影響した。 来年度は、閉校に伴い受験対象の 2 年生が在籍しないため受験者がいない。
	(2) 生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で役立つ国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。	(2) ア 資格取得、各種検定試験等の合格、各種コンテスト等への応募や競技会への参加を積極的に推進する。 イ 企業等との連携授業や校外での実習・見学など体験活動を積極的に実施する。	(2) ア・専門系に特化した資格・検定の受験者 100 名以上をめざす。【新規】 ・ジュニアマイスター顕彰受賞者 10 人以上をめざす。〔9 人〕 イ・授業や実習、課題研究および部活動で、外部との連携講座等の実施件数 20 件以上をめざす。〔15 件〕 ※閉校に伴う生徒数の減少を考慮した目標指標にした。	(2) ア・専門系に特化した資格・検定の受験者数 167 名（◎） ・ジュニアマイスター顕彰受賞者：8 人（○） ※3 年生生徒数の減少からジュニアマイスター顕彰受賞者は目標未達になった。しかし、専門系に特化した資格・検定の受験者数は大幅に目標達成している。引き続き工業の専門高校として資格指導を推進していく。 イ・外部連携講座等の実施件数 29 件（◎）（内訳）授業・実習関係 16 件、部活動関係 9 件、その他域連携など 3 件

府立西野田工科高等学校

2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校	(1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を推進する。	(1) ア 挨拶指導・遅刻防止指導・スマホ指導・通学時の自転車マナー指導を徹底し、生徒の規範意識を醸成する。また、面談を通した生徒把握により転退学の防止に努める。定期的な整理・清掃活動などを通して学校全体でものづくりの基礎となる5Sを徹底し学校環境の改善を推進する。	(1) ア・遅刻生徒数400件以下をめざす。[1120件] ※閉校に伴う生徒数の減少を考慮した目標指標にした。 ・転学、退学生徒数9人以下をめざす。[38人] ・生徒向け学校教育自己診断⑩学校環境の満足度90%以上をめざす [86%]。	・遅刻数：515件（△） ・転・退学者数：22名（転学：14 退学：8）（△） ※生徒の遅刻防止に対する意識は94%と非常に高い。昨年に比べて遅刻は人数比で30%減になっているが、一部の生徒の累積および後期に増加傾向がみられる。学年を中心に家庭と連携しながら継続して指導していく。 転退学の防止については、目標に対し大幅な未達となった。キャリア教育や担任等からの面談等を通じて、生徒に寄り添い進路実現を図るきめ細やかな指導を実施していく。 ・学校教育自己診断（生徒）項目⑭「学校の施設（教室・実習室・体育館等）は授業や生活がしやすいように整理整頓されている」肯定率：87%（○） ※目標に対して3%の未達であるが、昨年比プラス1%で十分に高い満足度ではある。引き続き学年や生徒会を巻き込んだ定期的な大掃除の実施や実習時の5S、安全意識の徹底を図っていく。
	(2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、人権感覚や人権意識の向上を図り、社会人に相応しい人格と態度を養う。	(2) ア 発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する。	(2) ア・生徒人権教育の実施回数4回以上〔6回〕 ※閉校に伴う生徒数の減少を考慮した目標指標にした。 ・学校教育自己診断（生徒）の項目⑫「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率90%以上〔89%〕をめざす	ア・生徒人権教育の実施回数：4回（○） ・学校教育自己診断（生徒）の項目⑫「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率：90%（○）
	(3) 生徒の自己実現への支援に努める。	(3) ア 教育相談体制の充実を図り、生徒指導部・学年・系の連携による生徒支援と教育相談活動を行う。また生徒支援関連の研修を実施し、教員の生徒指導の意識向上を図る。	(3) ア・学校教育自己診断（生徒）「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」80%以上を維持する。[85%] ・学校教育自己診断（教員）の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率80%以上をめざす [70%] ・生徒支援や教育相談に関する教員向け研修を1回以上実施する【新規】	ア・学校教育自己診断（生徒）の項目⑦「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定率：80%（○） ・学校教育自己診断（教員）「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率：58%（△） ・生徒支援・教育相談の教員向け研修実施回数：2回（SSW、外部専門家各1回）（◎） ※引き続き教育相談、生徒支援関連の教員研修の実施などにより、教員の意識向上をおこない支援と指導が一体になった生徒指導をめざす。
		イ 三か年を通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取り組み、就職内定率向上と離職率低減を図る。	イ・就職率100%を堅持するとともに生徒の進路決定率100%をめざす [100%] ・離職率調査において、自己実現のための離職を除く3年以内の離職率30%未満を維持する [24%]	イ・希望者の就職率100%（○） ・就職生徒の進路決定率：100%（◎） ・3年以内の離職率：39%（△） ※離職率はR4年度卒業生対象データでコロナ禍に高校2年生、3年生であったため、応募前見学等が十分にできていなかったことも未達の要因と推測される。離職率は、4年前の卒業生のデータではあるが、就職を主な進路先とする本校にとってマッチングが取れた進路指導の重要な指標として重要である。今後とも、企業研究や応募前見学等の積極的できめ細やかな指導を行っていく。
		ウ 生徒の夢や希望を実現するために、個々の生徒の状況や発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実に努める。	ウ・生徒向け学校教育自己診断の項目⑨「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90%以上をめざす [89%]	ウ・学校教育自己診断（生徒）の項目⑨「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率：90%（○）

府立西野田工科高等学校

3 安全安心で魅力ある学校	(1) 生徒会活動や各種イベントへの積極的な参加等、生徒が主体的に関わる活動を推進する。また部活動の活性化を推進する。	(1) ア 産業教育フェア、中学校訪問、地域小中学校との連携やものづくりイベント等の行事に、生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。 イ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。 ウ 閉校に向けて学年数、生徒数が減少していくがすべての生徒が自信と誇りをもって卒業できるように取り組む。	(1) ア・産業教育フェア、地域小中学校との連携やものづくりイベント等の行事に関わる生徒数のべ40人以上〔82人〕を維持する。 ※閉校に伴う生徒数の減少を考慮した目標指標にした。 イ・部活動加入生徒へのアンケートをおこない満足度80%をめざす。【新規項目】 ウ・生徒向け学校教育自己診断の項目①「学校に行くのが楽しい」を向上させ肯定率80%以上をめざす。〔78%〕【新規項目】	ア・イベントへの生徒参加人数：35人（△） （産フェア、大阪関西万博、公立大学との連携、大正ものづくりフェスタなど） ※予定していた地域連携イベントの日程が万博のイベント日程と重なり参加できなかったことによる。引き続き来年度も、多くの地域連携イベントへの生徒参加を推進していく イ・部活動加入生徒への満足度アンケートの肯定率：83%（○） ウ・学校教育自己診断（生徒）項目①「学校に行くのが楽しい」の肯定率：80%（○）
	(2) 公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。	(2) ア 公開授業を継続するとともに体育祭や文化祭などの学校行事の公開、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。	(2) ア・学校教育自己診断（保護者）項目⑪「学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」の肯定率80%以上をめざす〔79%〕 ・学校教育自己診断（保護者）項目⑫「学校では、PTA活動は活発である」肯定率80%以上をめざす〔75%〕	(2) ア・学校教育自己診断（保護者）項目⑪「学校行事（体育祭・文化祭・授業参観等）に参加したことがある」の肯定率：73%（△） ※比較的高い評価であるが、昨年度より減少している。閉校に向けての様々な活動を活発化し、多くの保護者の参加を推進していく。 ・学校教育自己診断（保護者）項目⑫「学校では、PTA活動は活発である」肯定率：60%（△） ※昨年に比べて15%減となった。閉校に伴う学年数減によりPTAの活動が限定的になってしまった。来年度は1学年となるが、小さな規模で充実できる活動を工夫しながら取り組んでいく。
	(3) 生徒に対しての防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取り組み、学校の危機対応能力を高める。	(3) ア 地震・津波などの災害を想定した防災訓練を実施し生徒の防災に対する意識を高める。 教職員の防災マニュアルを見直し危機対応力を高める。	(3) ア・学校教育自己診断（生徒）項目⑬「地震や火災等への行動について理解している」85%以上を維持する〔89%〕 ・避難訓練でのICTを活用した避難状況の保護者連絡の試行を行い、災害時の実効性の確認を行う。【新規】	(3) ア・学校教育自己診断（生徒）項目⑬「地震や火災等への行動について理解している」の肯定率：92%（○） ・避難訓練での避難完了時に教育支援クラウドサービスから保護者に避難完了を配信し、フォーム作成ツールで返信してもらう試行を2回（6/5、11/5）実施し、スムーズに活用できることの確認ができた。（○） ※アカウント登録した保護者からの返信率は1回め33%、2回め21%であった。今後の課題としては、保護者の返信率を向上させていく必要がある。
	(4) 学校ウェブページの充実や教育プラットフォームの活用、保護者、生徒、地域に対し学校の魅力発信に取り組む。	(4) ア 学校行事や地域ものづくりイベントへの協力・連携等を推進し、情報発信する。	(4) ア・近隣区役所等と連携したイベント等への参加を推進するなど各種イベント等への生徒参加を奨励しHP等で発信する。教員や生徒によるイベント等への参加5回以上を維持〔8回〕 ※閉校に伴う生徒数の減少を考慮した目標指標にした。 ・学校教育自己診断（保護者）項目⑬「学校は、教育情報について提供の努力をしている」の肯定率80%以上を維持する〔87%〕	ア・イベント参加件数：5回（○） ・学校教育自己診断（保護者）項目⑬「学校は、教育情報について提供の努力をしている」の肯定率：88%（○）

府立西野田工科高等学校

4 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) ICT を活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。 (2) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。	(1) ア ICT 機器を有効活用し教科等における教材の共有化を図る等その他、教育支援クラウドサービス等を用いた事務処理の効率化と会議のスリム化を図る。 (2) ア ・「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」や「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿って業務の見直し・効率化を図る。	(1) ア・教職員向け学校教育自己診断における校務の効率化に関する項目の肯定率について 70%をめざす。[59%] (2) ア・働き方改革を推進し、時間外勤務月 80 時間以上の職員をなくす。[2件]	(1) ア・学校教育自己診断（教員）項目⑬「ICT 器機の活用により校務の軽減が図られている」の肯定率：60%（○） ※授業や職員会議などでの教育支援クラウドサービス等の活用は定着したが、昨年度末に更新した校務システムなどについては、習熟途上で一定の負担感がある。新システムの利用定着などを進めていく。 (2) ア・80 時間以上の件数：0 件（◎）
----------------------	---	--	--	---